



巻頭言

政策提案をする安曇野市議会に

この春に統一地方選が行われ、地方議会についてテレビ新聞でも特集が組まれました。その内容は、選挙では立候補者が定員に届かず無投票、議員の成り手不足の状況。また議会は行政側の提案を追認するばかりで、議案を修正したり、議会側から対案を出すことがほとんどない。議会はちゃんと機能しているのかというものでした。そして各種報道のまとめは、議員の成り手を増やしていくには、議会がもっと機能発揮し、存在感を高めて行くこと。そのためにも、これからの議会に求められるのは政策提案能力である、というものでした。



そうです。今、1700を超える全国の地方議会に求められているのは、政策提案能力。そこに向けての議会改革なのです。で、安曇

野市議会はその点どうか。私はこの2年間、議会改革推進委員会の委員として議会改革を議論してきました。松本市議会を始め、いくつかの先進議会を視察にも行きました。

そして我が議会でも、委員会ごとに課題を洗い出し、テーマを設定し、それを調査研究し、最終的に行政に政策提案という形で提言しようということになったのです。

「おい、おい、そんなことまだやってなかったの?」「仕事、やりましょ。」と思う市民も多いことでしょう。

でも、そうなのです。議会としての政策提案の取り組みはようやく途に就こうとしている段階なのです。それぐらい、議員一人一人としての提案や活動はあっても、「議会として」とか「チーム議会」という観点での行動が弱かった。自分を振り返っても、1期目最初の4年間は、議員としての活動が精いっぱいだったように思います。

私自身も、当初は会派の壁が越えられず、他の会派と渡り合えるよう、自分と一緒に組める人を増やそう!というような勢力拡大を考えていたように思います。

しかし、さにあらず。現在私自身はどこにも属さない無会派議員だからこそ、どの会派の方たちとも真正面から駆け引き無しでお付き合いできる。政策提案のために会派を回って話をすることも身軽にできるのです。

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政が市民にとって身近なものになるように活動報告をお届けします。市政との虹(= Rainbow レインボー)の架け橋として頑張ります。望三郎の活動は市議ブログやフェイスブックでもどうぞ。→「増田望三郎」で検索。

私も2期目に入り、議会の権能が描けてきて、「チーム議会」、「議員力ではなく議会力」というキーワードを頼りに、議会として議論を重ね、議会として提言をしていくことの重要さを議会改革委員会でも議論してきました。そして今、議会改革委員会の総意として、議会全体にそれを提言し、取り組もうという動きになっています。

**市民の皆さんには政策提言を行う議会へと
かじ取りを切る安曇野市議会に注目してもら
いたいです。私は政策提案の最大の高みであ**

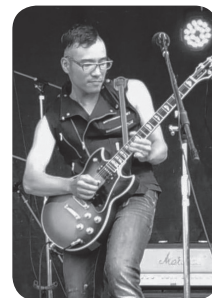
**る議会発議の政策条例の制定までいきたいと
考えています。**

安曇野まちづくりトークのご案内

車座で市民のみなさんと議員がより近く、安曇野のまちづくりを話し合う場を作っています。参加議員は望三郎と小林純子議員の2名の予定です。子どもさん連れ歓迎。ぜひご参加ください。

♪日時：10月27日(日) pm3:00～5:00

♪場所：穂高会館第三会議室



サポーターからの応援メッセージその22

古田 然さん(三郷、りんご農家)

望さんのもとにはたくさんの人が集まります。人を惹きつける力が本当に強い人だと思います。私も望さんが開いたイベントに何度か参加しました。そこで強く感じ感銘を受けたのが、望さんの“他者を否定せずリスペクトする姿勢”でした。

今、多くの人が意見を発信していて多様な意見に触れられます。反面似た意見の人だけで集まりやすくなり、自分たちの正義を掲げて他者を否定する言論も世の中に蔓延しています。もしかしたら望さんを、そんな“偏った考えで仲間を集めて喜んでる怪しい人間”だと思っている人もいるかもしれません。まあ一見の怪しさは否めませんが、望さんを知っている人なら、真逆の姿勢を私のように強く感じていることと思います。

議員としてがんばっていることに、その姿勢が表れていると思います。自分のファンに囲まれて気持ちよく暮らすこともできたでしょうに、あんな異なる意見が飛び交う場に身を置くなんで!どんな意見も一度受け止め、自分の主張も示しながら最善を探ることができなければ(本来なら)勤まる仕事では無いでしょう。こう考えると、議員って望さんらしい仕事だと本当に思うのです。

ただ、異なる意見の中で不必要にアツくなってしまうこともあるでしょう。そんなときは、私が望さんから感じている“媚びず、憎まず、愛する”の精神で、他の議員の方々と一緒に安曇野の未来を描いて欲しいと思っています。

9月定例会の一般質問

《質問 1》北小倉の民間事業者の 廃棄物処理施設は適合か

【解説】

三郷小倉にある廃棄物処理業者のチップ化処理施設は、住民の調査によると破砕機を使用していない状況が推認されています。これは許可申請時の内容と違い廃掃法の違反ではないか、また住民が安心できるように行政関与をしっかりと行うことを訴えました。

望市議 市は実際に破砕機が適切に処理しているところを確認したのか。

市行政 担当職員が定期的に巡廻し、施設内で代表者から作業状況等を確認している。先日は破砕機が稼働し、チップ化されたのを確認した。

望市議 処理業の内容が許可申請書と違う場合、許可内容に適合していると言えるのか。法令違反ではないか。

市行政 一般的には申請と違う状況を確認することが第一。それが法的に違法かどうかの確認が求められる。本件については裁判争点で答弁できない。

望市議 行政はこれまで住民監視・行政関与と言ってきた。住民が安心できるように、行政に関与してもらいたい。

市行政 定期的な巡廻と住民の苦情があれば、即座に施設に入り、原因究明と実態を把握する。

《質問 2》新たな仕事を創出する もう一つの観点からの 拠点づくり提案

【解説】

産業振興・仕事創出の市の新たな機能として、地域にある課題をビジネス手法で解決するソーシャルビジネス（以後SB）を創出するインキュベーション*拠点（以降インキュ拠

点）を創る旨の提案をしました。

※インキュベーション…創業・起業支援のこと



望市議 本市でのSBの必要性は。本市にその機能はあるか。

市行政 SBは今後地方都市でも重要な要素。起業家精神を蓄えた人材交流から思いもよらない解決策が見出されれば、インキュ拠点の役割は重要。本市ではその機能を持つ公の施設は整備されていない。

望市議 移住と創業とは親和性が高い。移住者への創業支援も含め、新しい仕事創出から、移住交流や関係人口まで生み出すソフト分野の総合拠点づくりができないか。

市長 移住希望者が移住を検討するには、住まい、仕事の確保が必須の課題。SBの拠点に移住相談の機能を持たせた総合拠点という発想は移住促進にも有効な手法になり得る。

望市議 次なる産業振興、仕事創出の一手として、まずインキュ拠点づくりをテーマにした研究会を作れないか。官民で膝を突き合わせて政策対話をし、立ち上げも運営もがっぷり四つで組む官民連携を拠点づくりを通してできないか。

市長 地域課題を行政が提示し、その解決に向けたビジネスプランを事業者や起業家など民間の力をかりて解決をしていく方法は、協働のまちづくりに掲げられている連携からさらに踏み込んでおり、協働が起業という形で実現される可能性を秘めている。

新総合体育館の建設計画について

南部運動公園に建設予定の新総合体育館の本体工事請負契約の議案が本定例会で可決されました。その契約額34億6600万円。私は、新総合体育館は市民が使い勝手のいい地域体育館にすべきで、規模と整備費用の縮小を訴えてきました。

また建設計画における市民説明会で、同じ生涯教育課の所管、また公共施設再配置計画において同じスポーツ施設であり、施設面積の縮減率が直接関係する穂高プールの廃止について、きちんと説明していない行政の進め方にも疑義があり、一貫して建設を反対してきました。今回はその本丸ともいえる本体工事契約の議案のため反対をしました。

可決されたことで、2021年10月の竣工を目指し本体工事が始まります。2027年の長野国体でのバレーボール少年女子の開催や昨今頻発する災害対策としての防災拠点など、新体育館をどのように活用していくかについて焦点を充てていく段階になりました。私も本議案の反対をもって体育館反対の区切りをつけ、今後は利活用について提案をしていこうと思います。

